

平成28年度第2回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

平成29年3月22日（水）午後3時00分～午後4時10分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

- ・スポーツ推進審議会委員：10名
金内晴夫 会長、増山尚美 副会長、小林照美 委員、小野善弘 委員、
山田浩人 委員、原 大輔 委員、山下和人 委員、松田和子 委員、佐藤敦子 委員、
袴田丈晴 委員（欠席：横山聡 委員）
- ・教育委員会事務局：7名
渡部教育部長、萬教育部次長、三浦スポーツ課長、
星野スポーツ係長、渡辺主査、中島主任、可児専門員

3. 開催結果

(1) 開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

(2) 教育部長挨拶

教育部長からあいさつ

(3) 挨拶

金内会長からあいさつ

(4) 報告事項

報告事項（1）平成28年度青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会表彰について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

これらの賞は、スポーツ大会において優秀な成績を収めた青少年を表彰するものである。選考基準について、スポーツ賞は、全国大会で3位以内、通算2年以上の入賞、全国記録の更新、スポーツ奨励賞は、全道規模の大会で優勝、全道記録の更新、教育委員会表彰は、全道規模の大会等で2位又は3位という基準になっている。

贈呈式は、2月25日（土）に、えぼあホールで開催し、市長並びに教育長から贈呈したところである。

資料1ページについて、青少年スポーツ賞の受賞者は、1個人、1団体である。

個人では、大麻東中学校3年生の二階堂 蓮（にかいどう れん）さんがスキージャンプの全国大会で第2位、団体では、江別中央ジュニアバレーボール少年団「江別中央ガッツ」がバレーボール男子の全国大会で第3位の成績を収めたものである。

資料2ページから4ページにかけては青少年スポーツ奨励賞の受賞者であるが、31個人、13団体、合計44件の受賞となった。受賞者や成績などは記載のとおりである。

次に、資料5ページから6ページの教育委員会表彰（スポーツ部門）の受賞者は、16個人、12団体、合計28件で、受賞者や成績などは記載のとおりである。

資料7ページには、年度別受賞者数の推移をつけている。本年度、3賞を合わせた受賞数は、74件であり、過去最高の受賞者数となった。最高位のスポーツ賞受賞者数は個人・団体各1件と例年に比べると数は少なかったが、全道大会1位のスポーツ奨励賞が44件と過去最高であった。

これまで受賞者には表彰楯を贈呈するのみであり、団体の場合、楯が団体に1つとなり、メンバー各個人には記念品はなかった。このため、今回から小さいバッジを制作し、記念品として各メンバーへ贈呈した。

（意見・質疑等）

○議長（金内会長）：

スポーツ賞等の記念品のバッジは子どもたちの励みになり、とても喜んでいたのでよかった。

報告事項（2）平成29年度スポーツ関係予算について

・スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

8ページの平成29年度のスポーツ関係予算は、主だったところの予算について掲載している。継続事業につきましては、前年度と変更のある事業や予算の増減が大きい事業について、説明する。

上から4番目の「体育施設整備更新事業」は、4つの屋内体育施設及び屋外体育施設の維持補修費並びに備品購入費を予定しているもので、前年度当初予算に比べ、29年度査定額が2500万円ほど増額となっているが、これは市民体育館バスケットゴールの更新が完了したことなどによるものである。

5番目の「体育施設整備更新事業（体育施設耐震化）」は、大麻体育館トレーニング室棟の耐震改修工事の経費であり、大麻体育館の耐震化は、来年度で完了する計画である。

来年度の工事期間は7月から10月を予定しており、部分休館の予定は、トレーニング室が8月の1カ月間、2階の軽スポーツ室が7月～10月の3カ月間、他に2階部分の研修室も3カ月程度の休館の予定である。市民周知については、昨年12月から大麻体育館に掲示している他に、予算が確定した後、4月には市やスポーツ振興財団のホームページなどに掲載する予定。

7番目の「屋内体育施設管理運営事業」については、平成18年度から4体育館に指定管理者制度を導入し、平成26年度から3期目となっており、指定管理者は江別市スポーツ振興財団である。今年度の大麻体育館第1体育室の耐震化による部分休館の減収分と来年度のトレーニング室棟の休館の減収分の差額の、約160万円の減額となっている。

また、9番目のあけぼのパークゴルフ場管理運営事業及び11番目の森林キャンプ場管理運営事業も指定管理料であり、これらの指定管理者は、いずれもエコ・グリーン事業協同組合となっている。こちらも平成26年度から3期目となり、前年同額となっている。

8番目のスポーツ少年団補助金、10番目の体育協会補助金については、会員数や事業内容によって毎年変動するが、平成29年度は少年団の補助金額は微増、体育協会は、全道大会の回数減により、補助金額は微減となっている。

下から4番目の「スポーツ大会等振興補助事業」については、原始林クロスカントリー大会などのスポーツ大会や、市民体育館・大麻体育館で実施の健康づくり指導相談事業に対する江別市スポーツ振興財団への補助で、必要経費の増により、若干の増額となっている。

次の「スポーツ合宿誘致推進事業」は、今年度から、道外からの合宿団体に対して、空港から宿泊場所、練習場所の野幌運動公園等までの輸送バスの提供。運動公園使用料の半額補助。江別市の特産品のPRを兼ねて、おみやげなどの提供を行っており、引き続き同様の支援を計画しているもので、予算としては6団体分を見込んでいる。今年度の実績は、高校・大学の野球、フィールドホッケー、バスケットボールのなどの7チームに支援を行ったところである。合宿に来ていただいた選手と、市内の選手やこどもたちとの交流の機会を作ることにより、スポーツ振興につなげたいという考えで行う事業であり、委員の皆様からも情報やアイデア等があれば、ぜひお知らせいただきたい。

次の「大麻体育館改修整備事業」は、トレーニング室棟の耐震改修工事と同時に行う、軽スポーツ室屋上防水工事と床張替え工事にかかる経費で、1,040万円の予算を計上している。

最後のパラ・スポ体験会開催事業は、東京オリンピック・パラリンピックを契機にパ

オリンピック競技の紹介や障がい者スポーツを多くの方に体験してもらう機会として開催するイベントへの補助で、昨年10月に市民体育館で実行委員会主催で開催されたものを発展させていくもので、今年9月の開催を計画している。

これらの予算については、3月の定例市議会の議決を経て、新年度予算として措置されるものである。

以上、これらの事業は、平成26年度からスタートした第6次総合計画「えべつ未来づくりビジョン」や、「第5期江別市スポーツ推進計画」に基づき実施するもので、本審議会において、ご意見やご指摘をいただけたら、今後の各種スポーツ振興施策に反映させたいと考えている。

(質疑等 → なし)

(5) 協議事項

協議事項(1) 市内スポーツ施設の整備に関する今後の方向性について

・渡辺主査から、資料に基づき説明した。

○渡辺主査：

はじめに、昨年11月に委員の皆様アンケートを郵送する形で調査をお願いし、幅広い視点でご回答、ご意見をお寄せいただいたことに感謝申し上げます。

この調査の集計結果については、12月14日付の文書により委員の皆様提供したところである。その後、さらにスポーツ課において、この調査集計結果等に基づいて集約し、本日資料として提出した。

最初に9ページの表には屋内の4体育館について記載している。中央の欄に、機能的課題及び改善点等として先般各委員からいただいた主な意見を列記している。右端の欄には意見をもとに、施設整備に向けた方向性として5つの項目に集約し列記している。内容としては、「子育て層のスポーツ活動時の施設機能環境づくり(例:遊戯スペース、託児室等)」「健康・体力づくりに関する基礎的機能の充実(例:健康、体力診断機能、ニーズに即したトレーニング機器の設置)」「バリアフリー機能の充実(障がい者を含めた対応)」「利用者の交流スペース機能の充実(活動後のコミュニケーションの場)」「災害時避難所等防災対応機能の充実」である。

続いて10ページと11ページにかけて、屋外施設について同様に記載している。(2)の石狩川河川敷緑地以下、(12)の森林キャンプ場について、この段階では、具体的な意見がなかったため、現時点での取り扱いとして「現状の施設機能の維持」という位置づけとしている。(1)の飛鳥山公園競技施設については、中央の欄に記載の5点ほ

どの意見があった。方向性としては右に記載のとおり、競技スポーツの総合性のある活動拠点として充実が必要としている。

11ページ下段には、その他の項目として、「大学や民間施設等の連携による活用」といった視点からの意見の主なものを記載している。集約資料については以上である。

続いて、12ページから13ページの資料については、参考資料として提出したものであり、平成27年度までの過去5年間の市内の「スポーツ施設年度別利用状況」を12ページに、また、13ページ以下は青年センターの主としてプール利用の状況データを示したものとなっている。

引き続きまして、各委員の皆様から意見をいただくにあたり、今回の議論の視点として2点ほど提示させていただきたい。

まず一つ目の視点としては、現在の市内の屋内スポーツ施設全体を見渡して、大枠の方向性として、市の人口規模や、更なるスポーツ振興といった観点から、現在の4体育館のほかに、現状の規模を超える施設などが必要か否かという点である。二つ目の視点としては、現実的な問題として市民体育館及び特に老朽化の著しい青年センター施設の今後のあり方をどう捉えるという点である。以上の2点にフォーカスを当て、一つ目の視点から順に、意見をいただければと考える。

(意見・質疑等)

○議長（金内会長）：

市民体育館の駐車場の件で、周辺からの苦情もあり、体育施設としては苦しいと感じている。市役所隣接の江別高校跡地を駐車場として活用しているが、他市町村からくると土地勘もなく、利用はなかなか厳しい。敷地内の緑地を減らし、駐車場を増やした経緯があるが、さらに駐車場を増やした方がいいのか。

ここに記載しているサブ体育館の整備について、大きな大会だとバレーコートは3面必要である。市民体育館は2面なので中途半端である。2か所で大会を開催しているのか。

○松田委員：

バレーコートは3面必要なので、3か所で大会をすることもある。

○議長（金内会長）：

仮に、バレーコートを3面に増やせば、観覧者も増え、駐車場をさらに増やさなければならぬという課題も出てくる。

新しい施設の候補地として市役所隣接の空き地も考えられるが、新聞報道ではまず市役所本庁舎の更新が優先と掲載されていた。

○渡辺主査：

更新に関しては、市民会館と市役所が優先であり、センターはそのあととなるとの議会答弁の報道である。具体的な進め方が確定されていない中で、順位づけがされたというところである。

○議長（金内会長）：

耐震も終わったばかりで、新築という話にはならないとは思いますが、市民体育館は12号線がすぐで道内の他都市と比べても便利な場所にある。利用価値は非常にあると思う。

○渡辺主査：

市民体育館は比較的総合型のイメージであり、青年センターや東野幌体育館や大麻体育館は地域的な体育施設という位置づけといえるが、この4つの施設で充足しているという解釈なのか、もっと進んだ考え方をすべきなのか。

○議長（金内会長）：

市内を見渡すと、東野幌・鉄南は市の施設としては少なく、豊幌方面は不足していると感じる。

○渡辺主査：

スポーツ施設ではないが、学校の他に地区センターが豊幌には存在している。

○小林委員：

実際のところ、個人で利用するのは1か所や2か所だと思う。

これだけ体育館はあるが、団体での利用は10人以上という条件があるため、ぎりぎりで持ちこたえている団体や10人満たなくて解散していく団体がある。その団体が青年センターを利用している団体なのか、大麻体育館なのか、どこの体育館でもそういうことはあると思う。利用者の数字だけではなく、団体の利用状況なども見ながら検討したい。

○渡辺主査：

もう少し踏み込んで、この施設にはこれだけの団体がいて、こんな風に年間どれだけ使っているという資料も検討したい。

○小林委員：

そういう資料があればいい。先日青年センターに行った際に、昔は青年センターの予

約がびっしり入っていたのに、今は空白部分がそこそこあると感じた。

同じサークルで上手に複数施設を利用している事例もある。

○松田委員：

ママさんバレーでは各学校を練習で利用し、大会は大麻体育館や東野幌体育館を利用している。シニアの70チームで2日間の大きな全道大会は、残念ながら市民体育館が取れなくて、野幌総合運動公園がとれたので、駐車場の心配はいらなくなったので安心した部分もある。

70チームが出場することもあり、市民体育館と野幌総合運動公園の両方をとれば江別市内だけで開催できたのだが、苦肉の策で、岩見沢の総合体育館と合同で開催する。

シニア大会は増えていく傾向である。江別市は使用料が比較的安く、札幌から使いたいと要望があり、こちらで開催している。しかし、その要望も毎年必ずあるわけではないので、受け皿を作ってほしいとは強く言えない。ただ、総合的なものがあると良いとは感じている。春高バレーを江別の3会場で行う予定もある。

○小林委員：

同じ大会で、市内で3つの施設を取ればいいが、岩見沢と江別で大会をするとなると開催地が離れているのは厳しい。

○松田委員：

市民体育館であればバスを市役所の駐車場にとめて、試合が終わったら迎えにくるという状況は大変なようだ。

南幌スポーツセンターも時々利用している状況。予約も比較的取りやすい。

○議長（金内会長）：

函館アリーナのような総合体育館をつくるのは難しいのだろうか。

○渡辺主査：

函館の方が市民体育館よりも少し新しいかもしれない旧施設を更新したもの。

人口に対してどれだけの大きさが必要なのか、基準があればいいが、明確なものはない状況である。

○松田委員：

北見市は道立と市の施設が並んでいるので、4面取れて、駐車場も広いので心配がなかった。

○渡辺主査：

きちんとした大会ができる施設がほしいという意見として承る。

上江別地区では体育館がほしいという要望があったこともある。例えば公共施設の配置が少ない場所に小規模体育館を整備するのはどうなのか。高齢化社会に向けて、地域住民が気楽に使える体育施設の整備をしていくのはどうか。

○議長（金内会長）：

江別太・上江別地区を結ぶ橋が完成すれば小さな体育施設も良いかもしれない。

あとは野幌高校周辺の空き地の利用はどうか。そうすると、まずは用地確保をしなければならない。

次に青年センターのあり方についてであるが、水中ウォーキングの利用が多いと感じる。野幌総合運動公園のプールは深くてウォーキングはできないのか。

○袴田委員：

台を入れて水深を浅くして、ウォーキングコースやチャレンジコースをつくっている状況。

○小林委員：

プールはなくさない前提で検討していくと理解してよいのか。財団でも年間スケジュールを作成して教室等も開催しており、利用している人が多いのでプールは必要だと感じる。

○渡辺主査：

レジャー、健康づくり、競泳用など様々な形態があるが、どう考えていくか。

○小林委員：

青年センターの水深が浅すぎてスタートの練習での事故があったと記憶しており、深さはある程度必要だと感じる。

○渡辺主査：

行政が全てのニーズに応えるのは厳しい面もある。民間施設の休館日等の利用を考えながら競泳を解決できれば、市の施設はレジャーや健康づくりの方向へいけるといような考えもできる。野幌総合運動公園からも協力いただいて、市の大会が実施できるように考える方法もある。

○議長（金内会長）：

青年センターの現在の場所は地盤が悪いと聞いたこともある。体育室の床が歪んで、改修したこともあったように記憶している。

アイデアとして江別小学校跡地は駅が近いし、江別駅周辺の活性化にも利用できるのではないかと。しかし、青年センター周辺の方々から不満が出る可能性もある。

○小林委員：

飛鳥山公園の陸上は公認とれていたか。

○渡辺主査：

現在は芝生の広場になっている。

○議長（金内会長）：

野幌総合運動公園も公認はとれていたか。

○袴田委員：

野幌総合運動公園も陸上トラックの公認は取れていない。財政も厳しく、備品を揃えないとならないため、公認をとるのをやめた経緯がある。

○渡辺主査：

プールの設置場所に関しては、かつて大麻にもという要望もあった。どこに設置するかとなれば中央の野幌という意見もあるかと思うが、場所の選定も課題である。

○議長（金内会長）：

学校は夏季のみで、通年の開放はしていないので青年センターは必要と考える。

○小林委員：

第一小が青年センタープールを使用して授業しているのなら、場所を移動するのは難しいのではないかと。

○小野委員：

野幌小学校もプールがないので、青年センタープールを利用している。

○渡辺主査：

あの距離で時間的には支障ないのか。

○小野委員：

なんとかやっている。時間がないものはしかたがない。

○山田委員：

千歳市では、総合プールを利用の際は開館前の10:00までに授業を終わらせるという使い方をしていた。市教委が送迎バスを用意してくれた。

○渡辺主査：

民間でやれる可能性もゼロではないため、協力を得ることも考えなければならない。

○議長（金内会長）：

大学はどうか。

○副議長（増山副会長）：

北翔大学は、プールのコストの関係で夏季のみの使用である。地域総合型スポーツクラブとして利用しているスポルクラブ会員からは冬もやってほしいと毎年要望あるが、冬季の利用は実現できていない。

○渡辺主査：

本日いただいた意見の他にも、提案した視点で情報や意見があれば、後日でもいただきたい。

（6）その他

○議長（金内会長）：

その他、何かないか。

○スポーツ係長：

次回の審議会の開催は、新年度の6月頃を予定している。

会議の内容については、平成29年度のスポーツ関係事業の報告などの予定である。

また、現在の委員の任期が平成29年5月31日までであるため、来年度は2年の任期の改選年となる。4月下旬に各所属へ推薦依頼を送付予定である。

（7）閉 会

午後4時10分 終了